

2020年 5月29日

仲間との経験が、財産になる！

古田敦資（和菓子処 関市虎屋 店主）

1. 和菓子職人 46 歳

関市の本町通り商店街で和菓子屋を営んでいます。
和菓子職人として、地域の企業経営者として、
また子を持つ親として、何ができるのか……。
それをいつも考えながら、日々を過ごしています。

最近では、疫病退散を願い「アマビエ」という妖怪を
和菓子にしてみたり、関市の新名物として「日本刀アイス」
なるものを商品化し、ゲーム会社とコラボしてみたり。

また、少しでも多くの方に和菓子を食べてもらいたくて、
小学校や中学校での「職業講話」や、地域で「和菓子教室」
など、積極的に行っています。



R2 田原小学校での「職業講話」



上生菓子『アマビエ様』



『疫病退散 アマビエあんまき』



『日本刀アイス チョコミン刀』

人に喜んでもらうことに嬉しさを感じて、仲間と一緒に何かやるのが好きなタイプ。今でも、仕事だけでなく、趣味にも遊びもそんなところは表れているかと思っています。「その原点って、どこにあったのかな？」と思い返してみると、たくさんの仲間の顔が浮かんで来ます。

2. 高校ラグビーを通じて

少中学校は野球、高校と大学時代はラグビーと、ずっとチームスポーツをしていました。大学時代はラグビー部のキャプテンを務めさせてもらい、本当に多くのことを学びました。

そこに至るきっかけは、高校時代にあったと思います。高校ラグビーと言えば、花園ラグビー場での全国大会。高校3年の時も同級生が夏に引退する中、当然のように10月まで部活をしていま

した。進学校である関高校で、夏を過ぎても部活をやってるラグビー部は、ちょっと異色でしたよね。最高成績は、県ベスト4。チームメイトと一緒に打ち込めた時間は、いい思い出であり、今となっては宝物です。

県選抜チームに選んでもらって、国体に出場するという貴重な経験もさせていただきました。



高校3年時 青いジャージが関高校



神奈川大学ラグビー部で主将を務めた

それで、勉強は？・・・そこについては、正直何も言えません。中学を卒業する時、先生に「夏までは中学校の貯金で何とかなるかもしれんけど、その先は自分次第や。」と言われ、見事にその通りになりました・・・。それまで取ったことのない点数を取るようになり、それにも慣れるようになってしまい、1年生が終わるところには大学入試に向けて危険な状態になっていました。そこで、試験範囲の限られている定期テストに的を絞って、評定平均を何とか盛り返し、指定校推薦で神奈川大学経済学部合格することができました。

和菓子屋の跡を継ぐことは決めていたので、大学はいろいろな経験をさせてもらうために行かせてもらったようなものです。横浜にある神奈川大学では、テニスサークルでのキャンパスライフを！・・・と胸を弾ませていたのですが、入ったのは結局ラグビー部でした(笑)。入学してすぐ、グラウンドで練習をしているラグビー部の先輩たちを見かけて、モワモワッと体がうずいたことを今でも覚えています。

それは、高校時代を思い返した時、「やっぱり、楽しかったよなあ」という充実感を持っていたからです。夏の暑い中でランパスを続けて、ケガも色々したし、ボロ負けした試合もあったし、しんどかったはずなのに、そのおかげで今の自分があるんかなあ・・・そう感じていました。ラグビー部で大切な仲間もできました。大学でラグビー部に入ったら、またそんな仲間が増えて、充実した時間が過ごせるかな・・・そんな思いに後押しされ、大学でもラグビーを続けることにしました。

3. 仲間との経験から

高校時代は、部活以外でもいろいろな経験させてもらいました。体育祭での応援団、文化祭でのクラスの出し物、球技大会。生徒会の役員をやったこともありました。自己満足の部分や、うまくいかなかったこともあるし、思い出すのも恥ずかしいこともたくさんありますが、それも含めて経験として今の自分に活かされていることは、実感しています。



高校2年時 応援団 担当は三尾寛次先生



高校3年時 文化祭
参加者とゲームをする出し物だったかな？

時代は、どんどん変化していきます。新型コロナウイルスの影響で、世界がこんな事態になるなんて、思っていませんでしたよね。これからも、予想もつかないことがおそらく起こっていくでしょう。その時に必要なことは、「誰かのせいにしないで、前向きにとらえて、行動すること」です。そこで、それまでの様々な経験が必ず活かされてくるはずですよ。

近年は、AIやICT技術の発展に代表される超スマート社会と呼ばれる状況にあります。その中でこそ、人と人とのつながりや、人間としての心の動きが重要視されています。そこにコロナによる、リモートでのコミュニケーションが急激に浸透し始め、ますますリアルな人間関係を大切にしながら、ツールを効果的に利用しなければなりません。



2017年8月 第45回生の同窓会 美濃観光ホテルにて

3年前、卒業25年を記念して、同窓会を開きました。同じ時代を過ごした仲間って、財産だなんて改めて感じました。高校時代はあっという間です。どんなことでもいいので、積極的に取り組んで、できるだけ思い出を作ってください！それが、力になることを卒業生の私たちは、知っていますから(^_-)-☆ がんばれ、関高生！！